

(様式2)

2021年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

2022年 3月31日

福岡女子大学学長 殿

申請者

所属名

国際文理学部 共通教育機構

氏名

田上 優子



事業名 (テーマ)	<input type="checkbox"/> 文理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 国際性 <input type="checkbox"/> リーダーシップ <input checked="" type="checkbox"/> 伝統・歴史・感性 <input type="checkbox"/> その他 ※いずれかにチェック <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください。		
事業実施者及び 事業分担者	金光 真美(ラーニングcommons) 大瀧 麻耶(図書館)	大学院生及び 学外協力者等	
活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること) ※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。 (活動内容) 学内の国際化の推進及び教職協働の機会の創出を目的とした以下の事業企画をおこなった。 1. ラーニングcommons、ランゲージ・カフェとの事業連携 1-1. ランゲージ・カフェ活動との連携 2020年度のコロナ禍においても学生の授業外活動の1つとして継続的におこなわれた「ランゲージ・カフェ活動」に対して、2021年度も引き続きその活動と連携をはかり、活動の支援をすることで本教育企画事業の内容の充実と深化をはかった。 1-2. 英語イベント 本プロジェクトメンバーはランゲージ・カフェ顧問教員、ラーニング・commons担当者、図書館スタッフで構成されるため、ランゲージ・カフェの活動とは緊密な連携により以下のような事業(イベント)を展開した。 ①関美和氏オンライン講演(9月19日) ②英語カフェ(シンプル英会話・上級)開催 (12月13日、20日、1月17日) 1-3. TOEIC講座 ①6月4日、18日、7月9日講座 ②12月2日、16日、1月13日講座 ③2月3日、17日、3月10日講座 2. 教職協働イベントの提案 2-1. 人材育成、グローバル、英語強化の観点から以下の行事を開催した。 ①卒業生ネットワークを利用した対談形式のイベント(8月7日) ②原貴太氏(SDGs関連)講演 (3月10日) ③愛場吉子氏(英語プレゼンセミナー)(3月23日) 2-2. 「The Arts & Crafts シリーズ」 イベントを通じ学生と教職員の交流機会を創出する。また、地域の方に向けた大学広報の目的でグローバルな視点で認められる芸術・工芸、または、海外に紹介できる日本の伝統文化にフォーカスしたものを選定したイベントを開催する予定であったが実施はできなかった。 2-3. 英語勉強会 将来の図書館でのグローバル対応を目指すべく、前年に引き続きスタッフの英語学習会を企画し、対面で1回、Zoom機能を用いて1回のみ実施した。 (成果) 1-1. ランゲージ・カフェ活動との連携 学生の授業外活動の1つとして積極的に運営をしている「ランゲージ・カフェ活動」は、2021年度もオンラインで開催された。その活動を支える基盤となるLINE公式アカウントの月額使用料をプロジェクトが負担することで、学生の広報、事業準備が順調におこなわれ、カフェ活動の停滞のない運営に貢献した。 1-2. 英語イベント ①関美和氏オンライン講演(9月19日) 30名参加(教職員含む)。 世界的なベストセラー本の翻訳者は福岡県出身者であった。英語が特に身近でなかった時代から、アメリカで仕事をするまでの「異文化体験」も含めて、「ことば」を生業とする講師の興味深い話に多くの参加者が熱心に聞き入る会であった。講演内容は好評につき、関氏は令和4年度の開学式典内の記念講演の講師として招聘を受けることになった。 ②英語カフェ(シンプル英会話)開催 (12月13日、20日、1月17日) 延べ10名参加。 卒業生・英語スクールの講師が担当。身近な学習ロールモデルとしての立場を保ちながらも、学習面・生活面のアドバイザーともなってもらい、学生、卒業生ともに意義ある取り組みができた。 今後も、イベントの要望をカフェメンバーを中心とした学生から聴取することで、企画運営の発展が期待できる。また、少人数イベントであっても広報や開催時の司会・運営補助役を学生に担当させる機会を作ることで、リーダーシップの一端を担う自覚をもってもらえる。 1-3. TOEIC講座 3期にわたり延べ90名強の参加者があった。受講者は受講期間の事前、事後指導でスコアアップを目指し、自己学習や(学習に限らず)時間管理についての理解を得ることができた。集中的講座の開催では、従来の基本レベルの他、内容に工夫を加えスコア別講座や、既受講生を再度集めてのアドバンスコースの開催も必要とされることがわかった。 2-1. 人材育成、グローバル、英語強化の観点から以下の行事を開催した。 ①卒業生ネットワークを利用した対談形式のイベント(8月7日) 参加者20名。 本学卒業後数年の5名のゲストと共に、「未来の自分」について考える対談をオンラインで実施した。 教職、物流関連、教育サービス業など福岡からの参加者に加え、タイからの参加もあり、オンラインの利点を生かして、時間と空間に依存しない対談ができた。学生にとっては、「多様な生き方」を知る機会となった。 ②原貴太氏(SDGs関連)講演 (3月10日) 参加者25名。 国際協力活動に従事するフリーランスの原氏の講演は、SDGsのフレーズだけが流行している中、「地球市民として自分ができること」について興味深い提言をされ、参加者からの積極的なコメントや質疑がなされた。 ③愛場吉子氏(英語プレゼンセミナー)(3月23日) 参加者20名。 より実践的な英語運用のプロによる指導が実現した。 学生に加え、教職員にもコミュニケーションの手段としての「スピーチ・プレゼンテーション」の指導を希望する潜在的なニーズがあることがわかり、(今回は破格の謝金交渉をしたが)組織の国際化、国際的競争力の強化には、プロによる研修を大学の使命としておこなう必要もあるといえる。			